あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.195　2014.11.1

市民と創るまる博へ

市民学芸員の活動

民俗調査発表展示

平成25年1月

昔の暮らし講座

平成25年10月

コトヨウカ行事民俗調査

平成26年3月

七夕人形づくり講座

平成26年8月

「まる博deウォーキング」現地調査

平成26年9月

市民学芸員は、松本まるごと博物館構想に基づく「市民とともに創る新しい博物館」の担い手です。現在65名の市民学芸員が、毎月、例会を開いて打ち合わせをしながら、博物館と協働で事業をすすめています。今後の活躍にご期待ください。

市民学芸員による民俗調査発表パネル展

今年3月に博物館と市民学芸員が協働調査した松本市内田地区のコトヨウカ行事を紹介します。

[会　期]11月29日(土)～12月23日(火)

[会　場]松本市立博物館　1階展示室

もくじ

博物館TOPICS ◇ 企画展「新収蔵資料展」……2
◇ 企画展「開智学校の授業―開発主義教授を中心に」……3
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……4

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

企画展「新収蔵資料展」

博物館の展示資料のほとんどは、多くの方々の寄贈によって成り立っています。これらは、博物館を訪れる多くの人々が、郷土の歴史や文化を知る資料として活用してほしいという思いで、博物館に受け入れられたものたちです。松本市立博物館では、寄贈いただいた方々の意向に応えるとともに、新たな博物館資料を多くの市民の皆様に紹介するため「新収蔵資料展」を開催します。

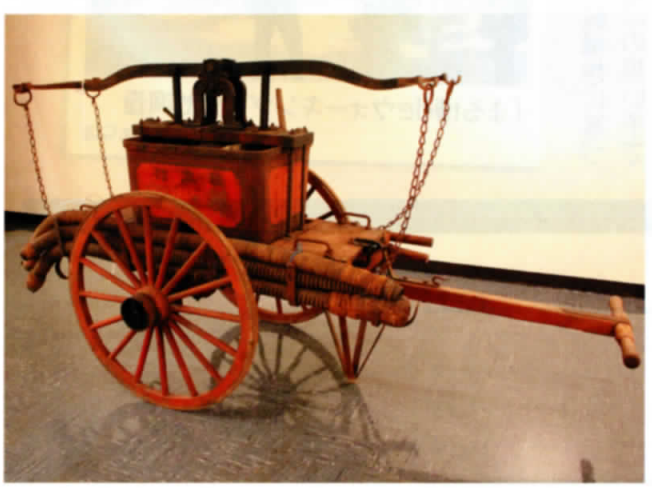
今回は、平成23年度以降に松本市立博物館に寄贈された資料を紹介します。受け入れ時期に幅があるのは、一回の受け入れの数によって資料の分析やリストの作成に時間がかかるものがあるからです。

また、今回は明治時代の消防ポンプなど近代・現代の資料が中心となっています。比較的新しい年代の資料が多いことから市民学芸員の方々に展示品の使い方や思い出などを紹介していただき、展示に参加してもらうことを試みます。

それでは、誌上でその一部を具体的に紹介します。

明治時代の消防ポンプ

これは、松本市島立堀米地区で大切に保管されていたものです。松本市立博物館には数台、同様のポンプがありますが、このポンプはその中で最も古い明治41年（1908）製です。前年に松本町が市になり、街の近代化が本格的に進みました。この消防ポンプは、そのような時代を示す一つの資料となります。他のポンプも含めて、松本市に合併する前は各村で所有していたものです。このポンプは「明治時代の裏町の大火で出動した」という話が伝わっています。防災活動が広域で行われていたということが見て取れる資料です。



撮影者不詳の山岳写真

昭和11年から14年（1936～39）にかけて撮影された6×6判写真フィルムです。箱に記されたメモを見ると、当時の北アルプスや美ヶ原などの写真に加えて長野県知事、スポーツを担当していた国家公務員、有名な山案内人の一人である内野常次郎が写っています。撮影者は不詳ですが、スキー競技に精通した人であったようです。登山や乗鞍岳でのスキーを楽しむ写真に混じって、戦地に出征する知人を写したものもあります。大正期の登山ブームから戦争の時代へと向かう時期の北アルプスが写された貴重な写真資料です。

美ヶ原より　昭和13年2月

また、近年は戦後のものも寄贈されています。最近のもの、特に消耗品は日常生活で目に触れるため、貴重品として認識されることはありません。そのため、日々の暮らしの中で用途を終えると何気なく棄てられていくものがほとんどです。これらは、普通の消耗品ですが、身近なものでしたので見た人の記憶を蘇らせる資料となります。これらはいずれ特定の時代の風俗を色濃くとどめる歴史資料となっていくことでしょう。

店の宣伝団扇

現在、お店からもらう団扇（うちわ）といえば夏の定番ですが、かつては別の用途の赤い団扇も配られていました。この団扇は、柿渋が塗られた丈夫なもので、七輪などで魚を焼く時に使われていたそうです。その用途から団扇の多くには魚屋の名が印刷されています。

記念品の団扇

これらの資料には、まだ整理途中のものもありますが、整理が済み次第、保存するだけでなく、常設展示や企画展示など様々な機会に郷土の歴史や文化を紹介する資料として活用していきます。

（松本市立博物館　学芸員／小原　稔）

企画展「新収蔵資料展」

［会　期］11月1日㊏～12月7日㊐

［会　場］松本市立博物館　2階特別展示室

企画展「開智学校の授業―開発主義教授を中心に」

明治7年頃の読物の教え方
（24人のクラス）

【教えること…イ（糸・井・犬・豕）の読み方】

①席順で1番～12番まで一人ずつ糸を読ませる
②24人一斉に糸を読ませる
③席順で13番～24番まで一人ずつ井を読ませる
④24人一斉に井を読ませる
⑤犬・豕も①～④と同様に教授する
⑥一人に糸・井を読ませ、次に犬・豕を読ませることを何回か繰り返す（後略）
※糸や犬についてその特徴などを掘り下げるのは、「問答」という別の授業で行うため読み方のみ

※筑摩県師範学校編『上下小学教授法細記』より

明治19年頃の読本の教え方

【教えること…イの読み方・書き方】

①教師　（糸の実物を示し）これは何か?と問う
②生徒　いとなり
③教師　実物を示さず口も使わず糸を相手に伝えるにはどうすればよいか?
④生徒　字を書いて知らせるのがよい（中略）
⑤教師　では糸のイの字から始めるがイの字を知っているか?
⑥生徒　生徒が挙手すれば指名して黒板に書かせる
⑦教師　黒板に改めて書し、生徒に読ませる（後略）

※若林虎三郎、臼井毅『改正教授術』より

上に示したのは、明治時代の字の教え方です。左が明治7年（1874）頃のもので、右は明治16年以降に広まった教授法の実践例ですが、その手順には大きな違いが見られます。

明治7年頃の教え方は、とにかく生徒を指名して字を読ませていきます。順番に読ませ、一斉に読ませ、交互に読ませと、何度も繰り返していきます。明治19年頃の授業では、イの字を教えるため、最初に糸の実物を生徒に見せます。その後、字を読ませる前にいくつかの問いかけを行っています。最初から指名して読ませていた明治7年頃とはアプローチが正反対といっていいほどです。

今回の旧開智学校の企画展では、こうした明治時代における授業での教え方を紹介しています。

学制発布以降、明治政府は近代的な小学校整備を急ピッチで進めます。その際、新しい小学校のモデルとして導入したのは、アメリカの教育制度・教授法でした。アメリカ人教師スコットの指導のもと、一斉教授や教育掛図、テーブルとイスで学ぶ教室といったスタイルが導入されました。

明治10年代になると、アメリカで盛んだった開発主義教授が全国に広まっていきます。それまでの記憶中心の教授法に対して、子どもの能力の開発が目的とされ、実際のモノや教材を用いて、目や耳・手などで感じる感覚をまず生徒に与え、そこから必要となる知識を与えていく教授法です。教師が教え込むのではなく、あくまで生徒が自ら気づいていくことが重視されました。

明治20年代になると、ヘルバルト派教育学が台頭します。ドイツで誕生したヘルバルト派教育学は、道徳面を重要視したことが政府に有用と認識されました。特に“五段階教授”と呼ばれる、独特の教授法が効率よく教授できる技術として、全国各地で導入されていきました。

開智学校には、当時の授業の内容を記した教案や授業日誌などが豊富に残っています。それらを読み解くと、上に紹介した学校教育の歩みの中で変化してきた開智学校の教育が見えてきます。例えば、明治7年の開智学校の書類綴を見ると、掛図やイス・テーブルの購入が頻繁に行われており、アメリカ式の教授法の整備が進められていたことが読み取れます。また、明治19年から残る、一日ごとの授業記録「教室日誌」には、開智学校で開発主義教授が行われていたことが記録されています。特に尋常1年生の授業において顕著で、最初に糸などの実物を見せる様子や、開発主義教授の手順で授業が行われていることが見て取れます。明治32年頃からは、教案に五段階教授の影響が表れてきます。

このように、明治時代だけでも授業の方法は大きく変わっています。開校当初は、小学校なのに英語や仏語を教えていたなど、開智学校の教育には様々な特徴がありますが、まずは皆さんに身近な国語や算数の教え方を紹介します。ぜひ展示室で明治時代の授業を体験してみてください。

（重文旧開智学校　学芸員／遠藤正教）

開智学校の授業―開発主義教授を中心に

［会　期］11月1日㊏～平成27年1月12日㊊㊗
［会　場］重要文化財旧開智学校校舎

松本市立博物館から　☎0263-32-0133

第５回「復活 話をきく会」を終えて

今から85年前の昭和４年（1929）に始まり、昭和16年まで41回にわたって開催された「話をきく会」をご存知でしょうか。これは胡桃沢勘内や池上喜作など、当時の松本の文化人たちが、柳田國男や折口信夫・金田一京助などの識者を中央から招いて話をきくという文化活動でした。

そして、平成22年に博物館で胡桃沢勘内の蒐集資料を紹介した「胡桃沢コレクション展Ⅱ」を契機に、平成の「話をきく会」が復活しました。「復活 話をきく会」と題して５回目となる今年は、昭和の「話をきく会」の最後に登場した香取秀真の没後60年にちなんで、東京藝術大学大学美術館の黒川廣子准教授から秀真の金工研究について、美術の視点で解説をいただきました。

毎年恒例となった「復活 話をきく会」です。また来年を楽しみにお待ちください。

はかり資料館から　☎0263-36-1191

今昔はかり展

はかり資料館の前身である「竹内度量衡店」について、収蔵資料をもとに紹介します。特許を取得した蚕のマユの雌雄選別器の開発など、松本の度量衡の歴史に大きな足跡を残した同店の歩みと、各時代で取り扱ったはかりを展示します。

会　　期　10月28日（火）～11月24日（月・休）
会　　場　はかり資料館
料　　金　通常観覧料（大人200円）※11月3日は無料開館
問 合 せ　はかり資料館まで

重文馬場家住宅から　☎0263-85-5070

松本平の御柱展

松本平に正月の風習として残る「御柱」の行事を紹介します。

日　　時　12月6日（土）～平成27年1月18日（日）
会　　場　馬場家住宅
料　　金　通常観覧料（大人300円）
問 合 せ　馬場家住宅まで

重文旧開智学校から　☎0263-32-5725

第８回「明治の授業を体験しよう！」

明治時代の小学校の授業を体験してみませんか？どなたでも見学いただけます。

今年は、郷土誌「開智学校の歩み」と、石盤と石筆などを使っての図画（現在の図工）の授業です。

日　　時　11月9日（日）午前9時30分～午後0時30分
会　　場　重要文化財旧開智学校校舎 特別展示室
対　　象　市内小学5年生を対象にしていますが、見学はどなたでも可能です。
申 込 み　小学生の方の参加申込みは旧開智学校まで

松本市歴史の里から　☎0263-47-4515

企画展「松本のたてもの 2014」

松本市歴史の里では、歴史の里建築講座「松本のたてもの2014」と題した講演会や講座を開催しています。その講演会や講座の成果、補足資料をパネルで紹介する企画展です。

会　　期　12月23日（火・祝）まで
会　　場　松本市歴史の里
料　　金　通常観覧料（大人400円）
問 合 せ　松本市歴史の里まで

博物館友の会から　☎0263-32-0133

博物館友の会 10 周年記念シンポジウム
わたしの描く未来の松本まるごと博物館

日　　時　11月16日（日）午後1時30分～午後3時30分
会　　場　松本市立博物館　講堂
コーディネーター　佐藤博康氏（友の会理事）
パネリスト　竹迫祐子氏（安曇野ちひろ美術館　副館長）
　　山田晴通氏（東京経済大学教授）
　　西森尚己氏（楽知ん見遊会 会長）
　　山田健一郎氏（山田建築設計室長）
料　　金　非会員の方は200円
定　　員　50名
申 込 み　11月4日（火）午前9時から電話で申込み
問 合 せ　博物館内　友の会事務局まで

あとがき

この前、テレビのロケがありました。今年に入って全国ネットのロケは２回目です。ウチの館だけでなく、博物館全体でロケが多くなっているようです。博物館が注目されて嬉しい反面、間違えずに正確に伝えなければならないというプレッシャーがすごいです。　(M.E)

あなたと博物館 No.195
発行年月日/平成26年11月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp
印刷 川越印刷株式会社